



令和7年度 卒業式 ご卒業おめでとうございます



3月17日(火)、令和7年度の卒業式を行いました。103名のこどもたちが立派に本校を巣立ちました。卒業式に向けて、6年生は礼儀作法、式のなかでの動き方などの練習を行ってきました。緊張しながら一生懸命取り組んだことで、回を重ねるごとに姿勢がよくなるなど、態度面での成長がみられました。

振り返ってみれば、この1年、始業式、入学式に始まり、全校児童が関わるたくさんの行事がありました。6年生は最高学年として、多くの行事の中心に立ちながら進めてきました。「学校運営」という言葉があります。これは教職員が力を合わせて学校づくりをしていくという教員側の言葉です。しかし私はこの1年間「学校運営」を行った大きな力となったのは、6年生であり、そして卒業式に参列した5年生の高学年を中心に、こどもたちがそれぞれの立場でがんばってくれたことだと振り返っています。責任を持つべき立場として、緊張感を持ちながらがんばったことは、これからの人生の糧にもなるし、これから成長していくための礎になったことと思います。

卒業式では、在校生である5年生が卒業生にむけて本気の声でしっかりと呼びかけを行いました。卒業生のために立派な卒業式にしようとして一生懸命になる姿も感動的でした。会場全体の気持ちが一つになった素晴らしい卒業式でした。

お忙しい中、PTA会長山田様をはじめ来賓の方々にもご参列いただき、卒業生の旅立ちの時を祝ってくださったことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業生、そして保護者の皆様、本当におめでとうございます。4月からの中学校でのますますのご活躍願っています。

式辞のなかで、こどもたちにつきのようなことを話させていただきました。

○ 卒業はきみたちだけのものではないこと～感謝の気持ちをもって

「小学校の全過程を修了したことを証する」とたった2行の文章が卒業証書には書かれています。しかしその2行には、みなさんのこれまでの努力が詰まっています。それ以上に、みなさんのために努力を惜しまなかったご家族、地域の方々、後輩たちの思いがあります。卒業は自分だけのものではありません。支えてくれたたくさんの人の思いに感謝しながらがんばってほしいと思います。

○ 「自分で自分を弱虫だなんて思うな。人間、やさしささえあれば、やらないきゃならねえことは、きつとやるもんだ」

「モチモチの木」より、じさまが主人公の男の子、豆太へ語った言葉です。自分で自分を弱虫と思うな～すなわち、自分を否定しないこと。強くならねばと肩肘をはって頑張りすぎる必要はないこと。それよりも「人の気持ちが分かるやさしさ」「人をおもんぱかる心」が大事であり、そのことを心に留めておいてほしいと願っています。

○ 「命」を大切にがんばってほしい

多くのご先祖様から受け継がれてきたこの命。大勢いるご先祖様のうち一人でも生まれていなかったら、今の自分は存在しません。今ここに自分が存在することは、奇跡です。この受け継がれた命はこれから広がっていく命となります。命を大切にがんばってほしいです。

○ 「古志原小学校の卒業生としての誇りをもってがんばってほしい」

世界中どこを探そうとも、これから何年経とうとも、そしてどこにいようと、令和7年度の古志原小学校最後の卒業生は世界中に君たち103名しかいません。古志原小学校の卒業生としての誇りを胸にがんばってください。

この1年間、保護者の皆様、地域の皆様には本校の教育活動へのご理解と多大なるご支援をいただいたこと心よりお礼申し上げます。令和7年度は3月24日(火)が修了式となります。

令和8年度は4月8日(水)よりスタートします。教職員一同、力を合わせてこどもたちを育てていきたいと思っております。保護者の皆様、地域の皆様、令和8年度も変わりませず、お力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。